

# クスダマツメクサ

*Trifolium campestre*

マメ科



クスダマツメクサの群落。後の赤い花はアカツメクサ

## 名前の由来

花の姿が薬玉(くすだま)にたとえられた。ツメクサとはシロツメクサ(白詰草)のこと。江戸時代にオランダからガラス器を運んだ際、箱の隙間に干草を詰めた。この干草に混ざっていたタネが芽生えて白い花をつけたのが名の由来。漢字名：薬玉詰草

## 形態的特徴

茎は地面から立ち上がり、高さ10~40cmになる。葉は三出複葉で、三つ葉状に3枚の小葉に分かれ、小葉は楕円形。葉柄の基部に細長い托葉があり、茎を抱く。花は黄色で、20~50個の小花が集まって径1~2cmの球状の花序になり、葉腋からのびる花柄の先にひとかたまりずつつく。ひとつ

の花の大きさは4~6mm。

類似種と見分け方：コメツブツメクサ。

全体の形、色はよく似るが、球形の花序を形成する小花の数は、クスダマツメクサでは20~50個であるのに対し、コメツブツメクサでは5~20個と数が少ない。

## 生育環境・分布

道端や、丈の低い草原、荒地など、日の当たりやすいところ。

分布：国外分布は、ヨーロッパ。他の地域については不明。国内分布は、北海道、本州、四国。

北海道内分布は、「北海道帰化植物便覧」によると、宗谷・留萌・空知地方を除く全ての地方で確認されている。十勝地方では、道端や、日当たりが良く丈の低い草原、荒地、河川敷などで時々見られる。

## 生活史

開花時期：7~8月。開花までの年数：1年以内。

寿命：1年草。

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。

## 興味深い話

■ヨーロッパ原産の帰化植物。1943年に横浜市で発見され、以後、各地で見られるようになった。



クスダマツメクサ。右上は花、右下は葉。葉はいわゆるクロパー形、三つ葉で一つの葉(三出複葉)

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期					■							

## 参考文献

「日本の野生植物-草本II-離弁花類」佐竹義輔・大井次三郎他3名 平凡社 1982

「原色日本帰化植物図鑑」長田武正 保育社 1976

「北海道帰化植物便覧」五十嵐博 北海道野生植物研究所 2001

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「北海道の花」鮫島淳一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

「名前といわれ 野の草花図鑑3【続編の一】」杉村昇 借成社 1987

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ